

氏 名 伊藤 竜也(いとう たつや)



Profile

氏 名	伊藤 竜也(いとう たつや)
所 属	新日本工業
記 録	自己ベスト100m16秒97 400m58秒06
障 害	頸椎損傷(T52クラス)
出 身	福井県(上庄小-上庄中-大野東高校中退)
テ ー マ	『 Re:Start 』(スポーツ・啓発)

【伊藤選手より】

17歳の時にバイク事故で頸椎を損傷し車椅子での生活を余儀なくされたが、それまでは夏は野球や柔道、冬はスキーなど色々なスポーツをしていた。交通事故に遭ってからは、普通に生きていることが幸せだと思い、スポーツとは無縁の生活を送っていた。しかし、心の中のどこかでは刺激を求めており、3輪のバイク(トライク)に乗って楽しんでいました。

車いす陸上を始めたきっかけは、30歳の時当時勤めていた福井県済生会病院にて障害者を支援するような窓口を立ち上げたいと動き出していた。その中で県の障害者スポーツ大会の視察に行った。その時に出会ったのがアテネパラリンピック金メダリストの高田稔浩さんだった。まずはレーサーを体験し、今まで体験したことのないスピード感にすぐに取りつかれてしまった。「君の障害クラスであればパラリンピックに行ける」その言葉に後押しされ競技を始めることにした。始めてからわずか2年足らずで100mの当時のアジア記録を更新し、さらに2019年にも更新。東京パラリンピックを目指していたが派遣標準タイムに0.02秒足らず参加することができず悔しい思いをした。選考されないことが分かれると落ち込みはしたものの切り替えは早く、すぐに次の2023年パリ世界選手権を目指す。この大会では400mで3位となり、念願叶い、パリパラリンピックの枠をつかんだ。しかし、結果は100m8位、400m予選敗退となり不甲斐ない結果となってしまった。その悔しさを糧に、現在はロサンゼルスパラリンピックでのメダル獲得を目指し再始動している。失敗は失敗ととらえない、やり直しは何度でも出来る。諦めない気持ち、目標を常に持ち続けることでそれぞれが達成できる何かがあることを伝えていきたい。